

はじめての業界紙入門

なぜ投資家は 業界紙を 熟読するのか

日本業界紙調査研究会

雷鳥社

観光業界の業界紙から旅館の経営環境を読む

「週刊観光経済新聞」を読めば日本の観光業界の現状がよくわかります。たとえば、同紙の2006年8月12日1面「提言、解説」には、観光地の旅館やホテルの厳しい現状がわかりやすく解説してあるだけでなく、これから観光地の旅館が何をすべきなのかについても触っています。

同紙では、まず景気は上向いているものの、温泉や観光地の宿泊客は伸び悩んでおり、旅館の経営の現状は、まだまだ厳しい環境下にあると現状を分析しています。

さらに、経営に行き詰まり外資系や“特殊なファンド”に買収された旅館やホテルが利ザヤ稼ぎのために転売され、地元との一体感がなくなっているという観光地の特殊事情にも切り込み、業界が抱える問題をストレートに伝えています。

そして最後に、国は海外から旅行客を呼び込む前にこのような旅館業界の現状について把握すべきだと警鐘を鳴らし、同時に旅館やホテル業界に対しても、より適切な融資のありかたについて一致団結して金融庁や銀行協会と話し合うべきだと提言しています。

この「提言、解説」を読めば、業界が抱える問題、業界の姿が見えてくるはずです。

観光業界の業界紙から旅館の経営環境を読む

景気は確かにに向いているにちからわらず温泉・觀光地の宿屋は「温



—924—

しなだけではなく、人それぞれが個人・夫婦、あるいは熟年女性グループなどで、個別観を求めて行動することになる。旅館・ホテルの大規模施設は「リピーター戦略」でお客を食い止めようとする

感動が魅力などがない限り、一度行くとどんなに立派な施設であっても「今度はこんなレジャー活動をしてよいか」との温泉地の宿に泊まろうか」ということになるのが当然だろう(別荘代わりに利用する一泊2食付き3~5万円の小規模高

「週刊観光経済新聞」2006年8月12日号より

ここを読め！

解説記事を読めば業界の問題点を把握できる
意見・提言を読んでおけば話のネタになる